

# 人にも生物多様性にも優しいREDD+セーフガード

## 概要

2015年のパリ協定によって、気候変動枠組み条約に加盟する全ての国は温暖化防止に取り組むことが合意されたことから、途上国の森林の減少・劣化の防止による温室効果ガス排出削減を目的としたREDD+活動の実施国が増えると予想されます。このような状況のもと日本政府は二国間協定によって、途上国で民間ベースのREDD+を推進する準備を進めています。REDD+は炭素蓄積源だけでなく熱帯林の多様な生物を守るために有効であると期待されますが、一方でREDD+活動によってこれまで森林を利用してきた人々が不利益をこうむらないようにし、別の場所で森林が減少しないよう配慮する必要があります。そこで悪影響を未然に防ぐために提案されたセーフガードに、日本の民間事業者がどう取り組むべきかについて分析し、整理しました。

## セーフガードの基礎知識

REDD+活動では、2010年の気候変動枠組み条約第16回締約国会議(UNFCCC/COP16)で合意(カンクン合意)された、右カラムの7つの配慮事項をセーフガードと呼びます。REDD+実施国は資金支援を受けるために、セーフガードへの取組みや進み具合を報告する義務があります。このような配慮に基づくREDD+活動を推進することで、森林保全の継続と周辺地域への悪影響防止も達成されると期待されます。

## セーフガードへの取り組み方

カンクン合意によるセーフガードは、具体的に何をすべきか、誰がどのように結果を評価するのかなどは決定されていません。しかしながら国際社会の合意によれば、日本の事業者が途上国でREDD+活動を行う場合もセーフガードに配慮する必要があります。そこで既存の事例と、国際的に認められている関連の認証制度などに基づき、実施者のためのチェックリストを開発しました。

- (a) 国家森林プログラムや関連する国際条約を補完し、または一貫性を保った活動
- (b) 実施国の法令および主権を踏まえた、透明かつ効果的な国家森林ガバナンス構造
- (c) 関連する国際的な義務、各国の事情や法制度を踏まえ、UNDRIP(先住民族の権利に関する国連宣言)を国連総会が採択したことに留意した、先住民族や地域社会の人々の知識や権利の尊重
- (d) 本決定の第70条および72条に参照される活動における、関連するステークホルダー、特に先住民族や地域社会の人々の全面的で効果的な参加
- (e) 天然林の保全および生物多様性保全と一貫性を保ち、天然林を転換せず、天然林および生態系サービスの保護・保全に関するインセンティブを付与し、さらに社会・環境的便益の増強となるような行動
- (f) 反転リスクに対処する活動
- (g) 排出の移転を抑制する活動

## 環境セーフガードに配慮した森林管理

環境セーフガードであるカンクン合意の項目eは、REDD+活動において生物多様性および生態系サービスの保全と増強を求めています。そこで期待されるセーフガードに対してはどのような森林管理をすべきかを、熱帯林の管理の実例や熱帯林での研究成果を元に、表にまとめました(右表)。このような森林管理のポイントを活用することで、炭素蓄積保全と生物多様性保全の両立が期待できます。

| 生態系サービス   | 早生・外来種植林                                    | 望ましい森林管理                        |
|-----------|---|---------------------------------|
| 木材生産      | 混交林、下層植生の増強                                 | 混交による土壌改良、天然林樹種の利用、低インパクト伐採     |
| 病虫害制御     | 天然林樹種の利用、生態系の連結性強化                          | 天敵生息地の維持、枯死木の維持、近縁種を隣接しない       |
| 物質循環および分解 | 枯死木やリターの維持                                  | 枯死木やリターの維持、必要に応じて土壌を供給、天然林樹種の利用 |
| 種子散布      | 利用不可  | 天然林樹種の利用、種子分散者生息地の維持            |
| 花粉媒介      | 利用不可  | 天然林樹種の利用、地域送粉者群集の生息地保全          |
| 水質・水量     | 水消費量の多い樹種の回避、立木間隔の縮小、堆積リターの維持、混交林、間隔の狭い列状収穫 | 択伐や低インパクト伐採、リターの質的向上、河畔林伐採の回避   |



岡部貴美子、古川拓哉



国立研究開発法人 森林総合研究所